

平成30年度の目玉研究等 内水面研究所

◆カワウの糞から魚類の食害実態を明らかにする研究

【背景】

- ・全国でカワウの個体数が増加し、内水面魚類の食害が大きな問題となっています。
- ・青森県でも近年カワウの個体数が増加し、内水面魚類の食害が懸念されています。
- ・駆除されたカワウの胃内容物を調べるのが、カワウ捕食魚の一般的な調査方法です。
- ・一方、カワウの駆除数が少ないこと、駆除したカワウの回収が難しいことが原因で、カワウ捕食魚の把握が進まない問題が生じています。

【目的】

- ・カワウの糞中に含まれる捕食魚のDNAを使った新たな手法により、カワウの捕食魚を把握し、内水面魚類の食害実態を明らかにします。

【H30目標】

- ・駆除個体が集まらず、これまで食害実態が明らかになっていなかった河川でカワウによる食害実態を明らかにします。

【今後】

- ・被害額の算定、カワウ広域管理計画協議のための情報を提供していきます。

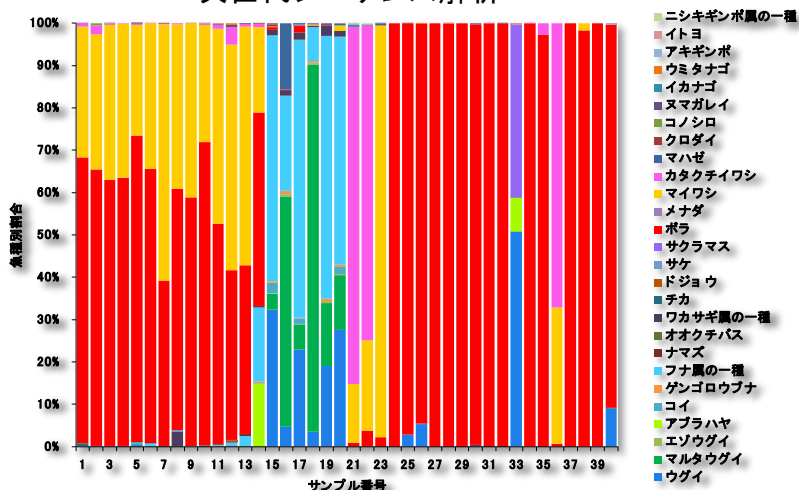
糞の採取



DNA抽出



次世代シーケンス解析



PCR



お問い合わせ

内水面研究所 調査研究部 (電話0176-23-2405)

Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center

地方独立行政法人 青森県産業技術センター

